

駒寄PAスマートIC社会実験について

柴崎徳一郎（吉岡町都市開発課課長）

1. はじめに

国土交通省では、既存の高速道路の有効活用や、地域経済の活性化を推進するため、建設・管理コストの削減が可能なスマートIC（ETC専用IC）の導入を検討している。

平成16年度には、スマートIC運営上の課題等を把握するため、一般道に容易に接続可能な既存のSA・PAにETC専用の仮出入口を設置する社会実験を、国土交通省、都道府県等と共同で実施している。

国土交通省が実験候補箇所として登録を受け付けた箇所のうち、各地区の協議会において社会実験の実施計画書が作成され、関係機関との調整が概ね終了した箇所に対し、国土交通省は採択を行った。現在（平成17年12月）、ETC機器の製作・設置等の実験準備が整い、社会実験が実施されているのは、全国で24箇所（準備中3箇所、実験終了8箇所）である。

駒寄PAスマートICは、第一次採択時に実験箇所と

して選定され、関係機関の協力のもと整備に至った。ここでは、駒寄PAスマートICにおける吉岡町の取り組み、社会実験の状況を報告する。

2. 駒寄PAの周辺地域

駒寄PAスマートICは、関越自動車道の前橋ICと渋川伊香保ICの間にあり、前橋市の北西部の吉岡町に位置している。駒寄PA周辺地域からは前橋市、高崎市方面への通勤が多く、関越自動車道に平行する国道17号で平日の朝・夕、休日の夕方に慢性的な渋滞が発生している。

また、駒寄PAの存在する吉岡町をはじめとする周辺地域においては、平成11年3月に上毛大橋が開通し、利根川で分断されていた地域の交通流が急速に増加する

表 吉岡町のETCモニター

	募集期間	募集人数
第1回	H16.11.19～H.17.3.2	500人
第2回	H17.10.11～H.18.3.末日	300人

図1 吉岡町駒寄PAスマートIC周辺地区整備区域図

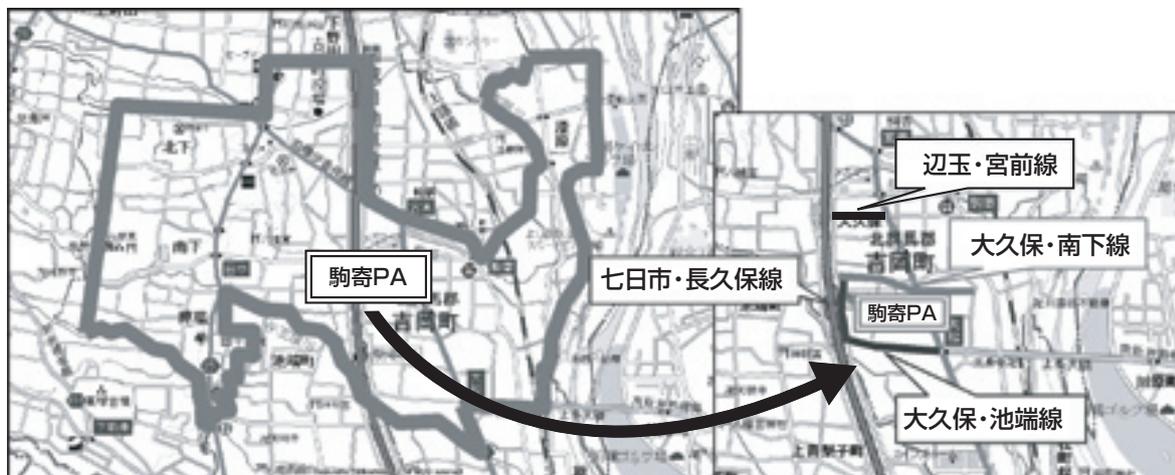
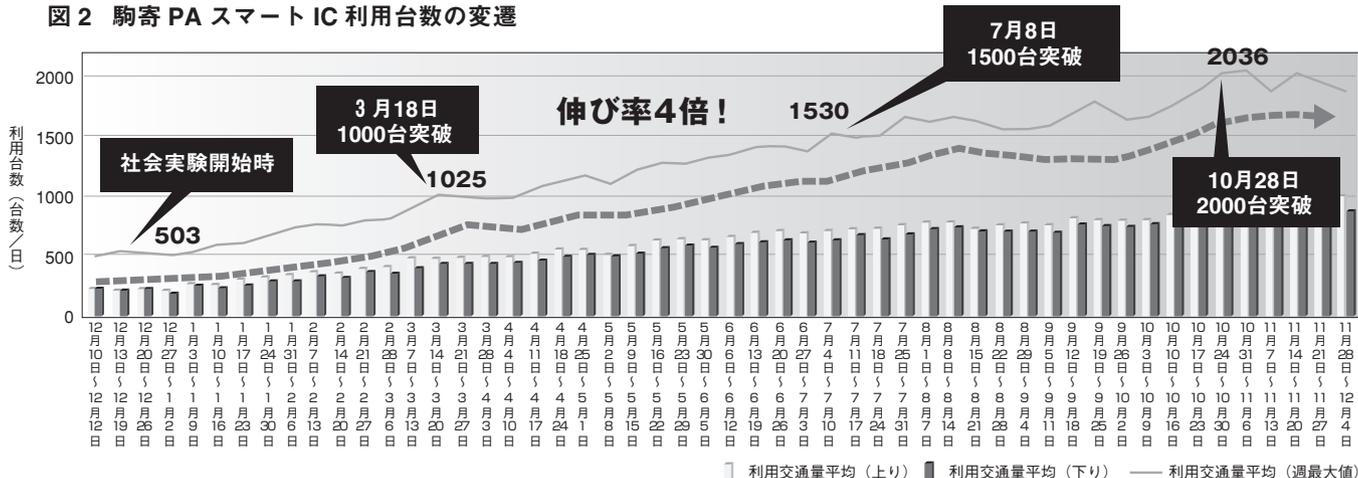


図2 駒寄 PA スマート IC 利用台数の変遷



とともに、生活圏や経済圏の拡大が図られ、地域住民の利便性が向上してきた。

しかしながら、近年の高速交通網を利用した生活環境の充実ならびに中毛地域の発展のためにも、高速道路網へのアクセシビリティのさらなる向上が、中毛地域の発展に不可欠と考えられ、駒寄 PA への IC 設置の実現が喫緊の課題となっている。

3. 駒寄 PA スマート IC 社会実験における吉岡町の取り組み

3-1 スマート IC 利用者に対するモニター募集

実験を実施するにあたって、スマート IC の利用促進およびアンケート調査による効果検証を実施するために、地域住民を中心としたモニターの募集を行った。

モニターに対しては、ETC 車載器の購入・セットアップの費用を一部補助する代わりに、社会実験実施中に ETC 利用者モニターとしてアンケート等に協力をお願いした。

なお、ETC モニター社会実験開始時と社会実験延長時の 2 回実施した。

3-2 駒寄 PA と一体となったまちづくりの計画

都市再生特別措置法に基づく「都市再生整備計画」として、「交通アクセスの向上と良好な居住環境の創出」を目標に「吉岡町駒寄 PA スマート IC 周辺地区整備」を計画した。駒寄 PA スマート IC へのアクセス道路整備として、図 1 に示すように大久保・池端線拡幅事業、大久保・

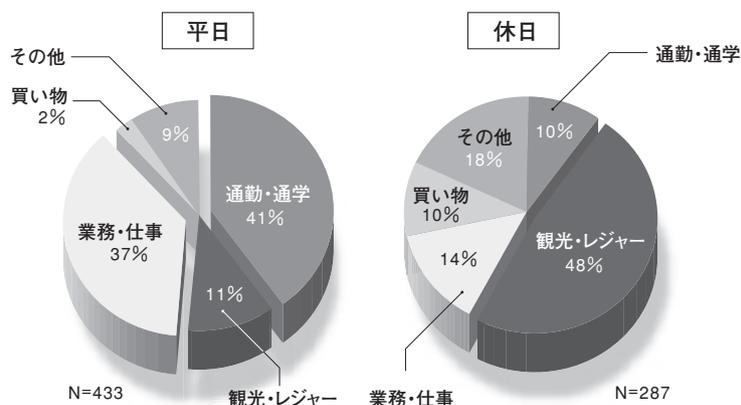
南下線拡幅事業、七日市・長久保線拡幅事業などを計画した。

4. 駒寄 PA スマート IC の利用状況と効果

4-1 利用台数

スマート IC の利用状況は、社会実験開始当初（平成 16 年 12 月 10 日）の 12 月の利用台数が一日平均 450 台だった。その後、日を追うごとに順調な伸びを示し、平成 17 年 10 月 28 日には 2000 台/日を突破し、自動料金収受システム専用のインターチェンジとしては、全国トップクラスの利用台数となっている。平日は、主に通勤・業務の利用、休日は、観光での利用が多くなっており、スマート IC が様々な目的で利用されている。

図3 駒寄 PA スマート IC の利用目的



スマート IC 利用者アンケート調査結果より

図4 駒寄PAスマートICがない場合の利用IC

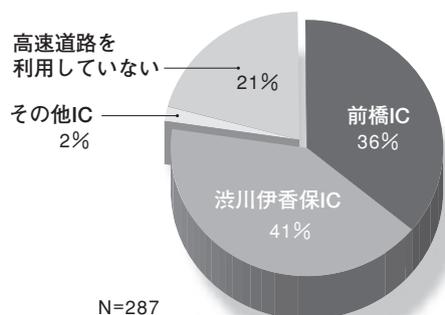
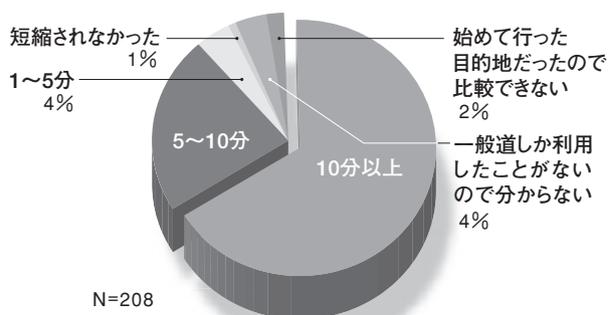


図5 駒寄PAスマートICによる時間短縮効果



近接の前橋IC、渋川伊香保ICからの転換交通が約8割となっており、渋滞ポイントを回避する交通の増加により、一般道の渋滞軽減に寄与していると考えられる。

4-2 効果

(1) 時間短縮効果

ETCモニターへのアンケート調査結果から、65%が駒寄PAスマートICにより10分以上の時間短縮、89%が5分以上の時間短縮効果を実感している。このことから、インターチェンジ間の短縮により利便性が向上し、駒寄PA周辺地域の住民にとって高速道路がより身近な存在となったと考えられる。

(2) 地域の発展

駒寄PAスマートIC周辺の主要地方道整備により、相次いで商業施設が開業し、今後も大型店舗の開業が予定されている。地元商業施設では、駒寄PAスマートICによる更なる集客が期待されている。

(3) 利用者、地元住民・企業、観光事業者等の声

地元企業等からは、以下のような意見が上がっており、24時間化、車種限定解除も含めて駒寄PAスマートICの恒久化に対する期待が高まっている。

- ・店舗間の巡回時などの移動時間が20分以上短縮され、業務の効率化にも繋がっている
- ・通勤時間が20分以上短縮され、朝の出発時間に余裕ができた

図6 地元新聞の掲載記事

「日本経済新聞」
(2005年5月25日)



- ・駒寄PAスマートICは大変便利で、効率よく移動できるため継続実施を希望する
- ・24時間利用できるようになることにより、24時間営業の商業施設としては、お客様も増加し、帰宅時に時間を気にせずに利用できるようになるため、さらに便利になる
- ・中型車以上の車も使えるようになれば、入荷・出荷のトラックも利用できるようになり、さらに業務の効率化につながるため、今後を期待している

5. 今後の予定

今後は、社会実験を実施していく中で、スマートIC利用者、地元住民・企業からの要望である恒久化に向けて、さらに24時間化の必要性、車種限定解除、誘導案内対策及び周辺道路の安全性向上等の課題検討を実施していく予定である。

(しばざき・とくいちろう)